

TOTAL-Tが教える

HOW TO AIR BRUSH

AIR BRUSHをはじめよう! -2003- VOL.09



基本が大事!

考えてみよう!

なぜ人物画なのか?

顔をかこう!

モノクロで練習しよう!



お勉強のコーナー

影で描く! 光で描く!

作業風景

<http://total-t.com/>

はじめに・・・

夢の“AIRBRUSHのHOW TO本”VOL.09

※ ビデオ CD  “ごあいさつ” を参照下さい。

皆さんこんにちは！ この本を購読して下さる方々に向けて毎月発行しているこの本ですが、今回は夏の終わりに出す Vol.09（第9号）です。

12回の号でひとくくりとさせたいこの本は、すでに後半に突入しております。

購読者のそれぞれに、この本に対してのお考えやお気持ちは違うと思うのですが、私としてはこの先12号まで一生懸命に進めていくしかないっ！といった感じです。

ここまで来たら購読者の皆さんも私と一緒に進んでいくしかないっ！といった感じですね。

今回も一緒に AIRBRUSH のことを勉強していきましょう！

TOTAL-T 竹島敏也



挿絵：Shigeru Yamamoto

お盆に山本氏が家族で遊びにきてくれました！
その時に山本氏が見た光景はこんな感じだった様です？？

もくじ

はじめに・・・	0
もくじ	2
まずはいっぷく・・・	3
第1章 ひと言のコーナー	4
「甘えるなっ！」	4
第2章 ワンポイントレッスン	5
TOTAL-T 流 うまくいかない時の解決策	5
第3章 考えてみよう！	7
なぜ人物なのか？	7
第4章 お勉強のコーナー	8
影で描く！ 光で描く！	8
第5章 顔を描こう！	10
モノクロで練習しよう！	10
第6章 オマケの使い方	12
オマケで遊んでみましょう！	12
弟子の独り言	14
弟子の独り言	14
感想文	16
第7章 知ってもソンしないコラム	18
ビデオ CD とオマケについて・・・	19
編集後記	20

まずはいっぶく・・・

おなじみになった恒例の“まずはいっぶく”のコーナーですが・・・

いつものようにゆっくりといっぶくして、気を落ち着けて、この本を読んでいって下さい。



私は人からよく「遊んでいるのか、仕事しているのか、よくわからない」と言われます。

それはどうしてかと言うと、いっぶくばかりしているからです。

まじめに仕事をしている様子を見たことがない、姿を見ればいっぶくしているか寝ているかのどちらかとよく言われます。

人前ではマジメになれないというか、私の場合、人と時間を一緒に過ごす時は楽しく！が良いと思っているし、一人になった時は集中出来る時間、自分の時間と思っているためでしょうか？夜に仕事をしたりするのはそのせいで、人っ気のない静かな夜にマイペースでじっくりと作業をしたり、いろいろと考えたりして自分の時間をエンジョイ？しているのです。

とにかく、何事もマイペースでじっくりととりかかれば良いのではないのでしょうか？

そうすれば失敗も少なく、確実にものごとが進んでいくのではないのでしょうか？

毎日忙しい時間が過ぎていくよりも、ゆっくりとした時間の中で自分のイメージ通りに物事が進んでいけばいいなぁ・・・と、つくづく思いながらこの文を書いています。

私がこんなふうな文を書くということは、現実にはそうなっていないということ。

仕事に追われ、時間に追われの毎日で、盆休みもなく、毎年家族で必ず行っていた海にも今年は行けませんでした。

しかし、そうなったのは誰のせいでもなく自分のせい。

自分の夢を果たすために自らとった行動なので、しかたのないことです。

皆さんがこの本を購読しているのも、あなた自身が自らとっている行動です。

この行動が無駄にならないように、今回も一緒にがんばっていきましょう！



第1章 ひと言のコーナー

「甘えるなっ！」

※ ビデオ CD  “ひと言のコーナー” を参照下さい。

今回のひと言は「甘えるなっ！」です。

キツイ言葉になるかもしれませんが、時には TOTAL-T も鬼にならなければいけないと思って、この“ひと言”にさせて頂きました。

現在 AIRBRUSH で活躍している人達のほとんどが数年の長い時間をかけて独学でその技術を身につけています。

教本も何も無いところから始まり、失敗を繰り返し、努力や研究心を常に持って、少しずつ技術を上げていったという方がほとんどだと思います。

その点現在は、あちこちで AIRBRUSH の技術を教えるといった動きが出はじめ、教室の他、本やビデオなども出てくるようになったので、それらをうまく活用していけば、技術を習得するまでの時間は極端に短くなるはずなのです。

この本を読んでいるのに「うまくいかない・・・できない・・・」というのは甘えにしかすぎません。

甘えでないとしたなら、先を急ぎ過ぎなのではないかと考えます。

最初からうまくいく人は誰一人いないと思います。

みんな何もわからないところから始まり、失敗を繰り返してうまくっていくのです。

いきなりうまくいかないのは当たり前のこと。

うまくいかなかったら、うまくいくように自分で考えて努力していくことが大切です。

最近の自分は“体で覚える”“失敗して覚える”といったことを教室の中などでよく言うのですが、それはなぜかと言うと、自力でがんばってほしいからなのです。

自分としては、これでもかっ！というくらいに手本を見せたり、言葉で伝えられるものであれば一生懸命に伝えているにもかかわらず「うまくいかない・・・できない・・・」と返されても、私としてもどうしようもないのです。

うまくいかない人に何が足りないのか？・・・

“努力”や“研究”をやるということが不足しているのでは？

うまくなりたいたいという欲があるのなら、その欲を果たすための努力が必要です。

その時は人に甘えるのではなく、自分でよく考え、いろいろ努力してみれば良いと思います。

手に任せてただハンドピースを動かすのではなく、いろいろ考えていろいろ試してみる、実験してみるといったことを私は皆さんにお勧めします。

うまくいかない時はつらくなりがちですが、それをがんばって乗り越えることで“力”となっていくのではないのでしょうか？

第2章 ワンポイントレッスン

TOTAL-T 流 うまくいかない時の解決策

うちの AIRBRUSH 教室にやって来る人の様子を見ていてわかることなのですが・・・
うまくいかない場合は手が止まってしまいます。



AIR の音がシューッシューッと調子良く聞こえていれば安心なのですが、手が止まると、当然のごとく AIR の音も止まってしまう、ただボーっとしているというような姿がよく見受けられます。
どうすればいいの？となんとも言えないような困った顔をして私に頼ってきます。

教室の場合は私がそばにいたので対応できるのですが、本やマニュアル等を頼りにがんばってやっている方は教える人がそばにいないので、自力でその壁を乗り越えなければいけません。

やる気は十分あるのに、わからないから手が進まないといったことは私にも経験あります。

手が進まなくなった時は、いったいどうすればよいのでしょうか？

私の場合は・・・

ふりかえってみると、私の場合は知らず知らずにして 実験をしてみているような気がします。

どんな実験をしているかという・・・
両極端な実験をしていることが多いです。

色の希釈で悩んだとしたなら、極端に濃い色（希釈をしない色）と極端に薄い色（ほとんどシンナーでシャバシャバ状態の色）をそれぞれ使ってみて、その差を自分の体で感じることでうまくいかない原因みたいなものをつかみ、その後、自分の思うところまでの希釈具合にもっていっているような気がします。
色の濃さ、AIRの圧力、距離や手の運び具合、他にも両極端な実験をやることで、うまくいかない原因のようなものを自分でつかみ、自分自身で解決していくことができれば良いわけです。



自分で解決策を見つけることができれば、先生は必要ありません。

AIRBRUSHをやる場合、難しい計算などはほとんどなく、ごく普通に当たり前のことを知っていれば、ほとんどのことは自分で解決できることなのではないかと思うのです。

最初はどれもがチンプンカンプンでしたが、今考えてみれば、普通に生活する中での通常の知識や経験があれば理解できるようなことばかりなような気がします。

私は学生時代あまり勉強しなかったほうなので、もう少し勉強しておけばよかったと思うこともたまにありますが、小中学生レベルの勉強ができていれば十分だと思います。

頭が良くなければ良くないなりにこれから必要なことだけを勉強していけばいいと思っています。

それと・・・

私が実際に絵を描いている時に思っていることは、「うまい絵を描くぞ!」といった気持ちより、塗料の一粒一粒が今どうなっているか?というような顕微鏡や虫眼鏡で見ているような気持ちや、絵を描いている自分にひたるのではなく、後方で絵を見ている第三者（他人）の気持ちになるように心がけていて、案外にも冷静な気持ちになって描いていることが多いので、これも参考になればと思い、この文を書いています。

理論的にその時々状態をよく考えるとといったことや、絵を見る側の立場、第三者の立場になって描いていることが多いということです!

心を込めてというより、案外にも冷静な気持ちでやっているのです。

第3章 考えてみよう！

※ ビデオ CD  “[考えてみよう！](#)” を参照下さい。

なぜ人物なのか？

ビデオ CD の内容を見れば、私の言いたいことはわかっていただけると思うのですが、CD 中では言っていないことをここで話させていただきます。

あなたが自分で描いた絵・・・

自己満足で良いですか？ ということをまず皆さんに質問します。

自己満足で良いのなら、それでもいっこうにかまわないのですが、せっかく絵を描くののなら、その絵がまわりの人達から認められたほうが良いのでは？と思うのです。

認められるには人物画は外せないところ・・・

人物を似せて描くということは技術を持っていないと描けません。

それではもうひとつ質問！

トレース（下書）をして描く or トレース無しで描く どちらを目指したいですか？

これもあなた次第だと思っているのですが・・・

もしもあなたが TV のお絵かき大会（ここでは AIRBRUSH 大会を想像して下さい）に出たとします。

対する相手は下書きをして、それなりの人物画を描きました。

あなたは下書き無しで、それなりの人物画を描きました。

どちらの技術が認められるか・・・一目瞭然のごとく、あなたが“上手”と認められるはずで

でも、相手の下書きをしているところが TV に映らなかった場合を考えると、なんとも言えません。

私もケースバイケースで下書きをする場合もありますが、出来ることならトレース無しで絵をスラスラと描いていきたいと常に思って、努力しています。

究極に難しいとされる、“人物を似せて描く”ということをトレース無しでスラスラと描けることを目指して是非皆さんにがんばってほしいと思っています！わたしも同じようにがんばります！

しかし、いつもトレース無しで描け！と強いことは言いません。

トレースをすれば、位置決めに時間がかからないので、時間を短縮したい場合や正確な位置が必要とされる場合は全然 OK だと思います。

但し、勝負の時？に備えて密かにトレース無しで絵を描く技術をトレーニングしておけば、勝利も見えてくるのではないかと思うのです。

第4章 お勉強のコーナー

※ ビデオ CD  “お勉強のコーナー” を参照下さい。

影で描く！ 光で描く！



一般的に鉛筆やペンの色は黒が多いですよ！ また、紙の色なんかも白がほとんどですよ！
そんなために、絵を描く時は白いキャンパスの上に黒の色で絵を描くといったことが当たり前のようになってしまうのです。

車に絵を描くことをちょっと考えてみて下さい。

白い車であれば戸惑いなく絵は描いていけるような気がすると思うのですが、逆に黒い車に絵を描こうとすると、皆さん戸惑いを感じると思いませんか？

それはなぜかという、普段の生活の中で絵を描く時は、黒色を使って描くことがほとんどだからです。

黒の車に黒色で絵を描いても絵にならないから白色等の明るい色を使って描けば・・・と思うまではいいのですが、その先どうやって描いていけばいいのか？と悩んでしまう人が多いのでは？と私は思っているのです。

黒色で絵を描くということは、暗い影の色で絵を描くということで、明るい部分である光のところはキャンパスの色である白を残すように描いていくのが普通の描き方として定着してしまっていて、その描き方が皆さんにも固定観念として入ってしまっているのではないかと私は考えています。

影で描くということに関しては、皆さん戸惑いなく進めていけると思いますが、光で描いていくということも、これから勉強して行ってほしいと思っています。

絵の要素として、光と影のバランスというものがあります。

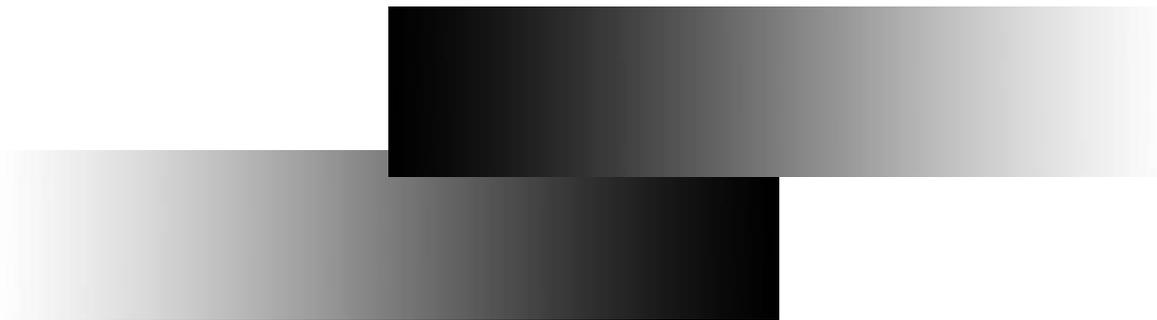
単純に考えれば、影が多いと暗い絵になりますし、光が多いと明るい絵になります。

しかし、光を描きたいなら、そのまわりが暗くしなければいけませんし、影を描きたいのなら、そのまわりは明るくしなければ表現はできません。

絵には光と影のバランスというものがあります。

光と影のバランスをよく考えて絵を描いていくことが大切だと思います。

また、光と影のレベル（段階・度合）等も同時に考えるようにして絵を描いていきましょう！



黒色と白色・・・

2色だけの組み合わせでも色の出方は様々です！

- 黒と白を合わせ、グレーを作っても色の段階は様々。
- 希釈具合や色の重ね具合によっても段階は様々。
- 下の色を消していく場合もあれば、透かして見せることも。

とにかく、白と黒の色を使って、いろいろな色の出方を研究して行って下さい！

第5章 顔を描こう！

※ ビデオ CD “顔を描こう！” [1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#) [7](#) [8](#) [9](#) [10](#) [11](#) [12](#) [13](#) ”を参照下さい。

モノクロで練習しよう！

今回はモノクロで絵を描いていく手順をビデオ CD の中で説明していますので参考にして下さい。

ビデオ CD の中でも説明していますが、今回は絵の配置を決めるために“マス割法”を活用しています。



下の写真は、私が 20 歳の頃に始めて地元のお祭り用に描いた絵ですが、実はこれがきっかけとなって今の自分がいるのですが、この時に使った技法、初めて知った技法が“マス割法”でした。



↑ちなみに真ん中に写っているガキンちょが今回の号の挨拶のシーンで登場している本町4丁目のふくちゃん（現在 26 歳）です。

このお祭りの絵がきっかけとなり私の人生を大きく変えることとなりました。

この頃から、絵を描く“喜び”“楽しみ”などを感じるようになり、現在に至っているわけです。

お祭り用の絵として、マドンナのレコードジャケットの絵を2M×2Mくらいに拡大して絵を描く事になったのですが・・・

どうやって描いていけばよいのかも、まったくチンプンカンプンでした。

その時に一緒にその係をしていた町の同僚が教えてくれたのが“マス割法”でした。レコードジャケットをコピーし、それにマス目を書き、それを何倍にすればこの大きさになる！といった考えで絵の下書きをしていきました。

“マス割法”を使うことで見事に下書きが完成し、その後は色を入れていくといった作業でした。

初めてのこともあって、時間はすごくかかりましたが、作業をしている時の私は真剣そのものだったような気がします。

絵を描く快感を味わってほしい！！

絵を描いている時の自分は、嫌なことを全部忘れるくらいに集中でき、“極楽”にいるような何とも言えない気持ちで絵を描いていました。

完成後のお祭りでみんなに披露され、その絵を見た人が「上手いっ！」って言った時の“快感”は今でも忘れられません。

これこそ“絵を描くことの喜び”だと思います。

今は、この“快感”を皆さんにも味わってほしいと思って、この本作りに励んでいるところです。

第6章 オマケの使い方

※ ビデオ CD “オマケの使い方   ” を参照下さい。

オマケで遊んでみましょう！

今回はブラックライトに反応する特殊塗料！



通常は透明ですが・・・



ブラックライトを当てるとビックリ！

今回はブラックライトに反応する特殊な塗料を付けました！

なかなか入手しにくい塗料で、あまり一般には知られていない塗料です。

また、AIRBRUSH ペインターの中でもこのような塗料を使って絵を描く人はほとんどいないのが現状で、それだけ特殊な塗料となっています。

この塗料も種類様々なので、用途や目的にあった使い分けが必要となってきますが、まずはこのオマケで遊んでみて下さい。

ブラックライトはホームセンター等にも置いてあります。

普通の蛍光灯の器具に取り付けられれば OK です。

ブラックライトの環境をとれない方は、ブラックライトが設置してある“夜のお店”“ディスコ”“クラブ”“カラオケ屋”等へこのオマケの魚と共に足を運んでみるのも手かもしれません。

ブラックライトに反応する塗料は光の3原色で考える！

普通の色料は各色を混ぜ合わせていけば、黒に近づいていきますが、
今回オマケに付けた塗料の場合は各色を混ぜ合わせていけば、白に近づいていきます。

★ 色料の3原色は各色 CMY。

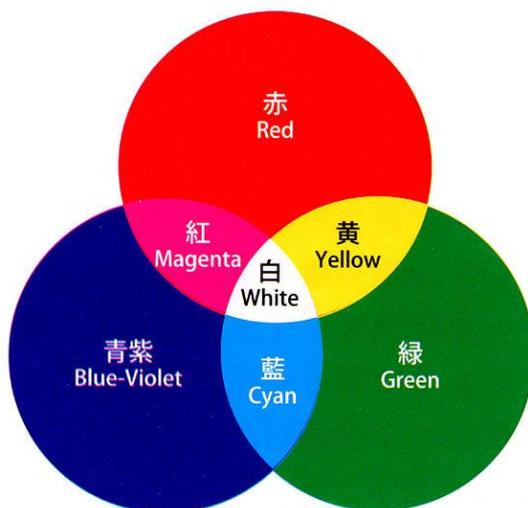
シアン・マゼンタ・イエローがあればすべての色が出来るという理論です。
この理論を念頭に色を使っていくのが通常です。

★ 色光の三原色は RGB。

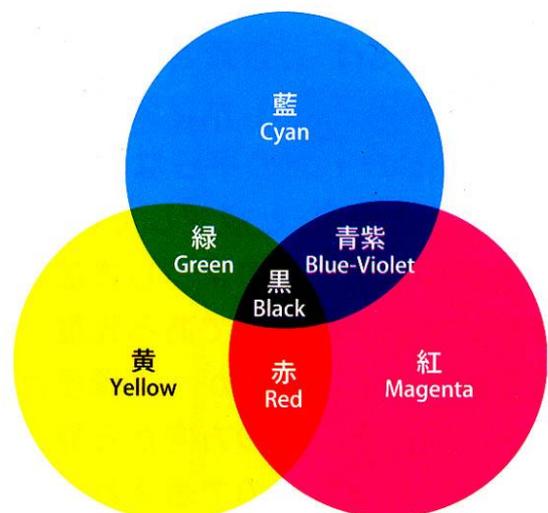
レッド・グリーン・ブルーがあればすべての色が出来るという理論です。

※ このオマケの塗料の場合は、各色 (R・G・B) を混ぜ合わせても“イマイチ”といった感じなので、
それぞれの色単体で楽しんだほうが良いと思います。

※ また、このオマケの塗料は耐光性に乏しいので、時間が経つごとに発色が鈍っていきます。
よって、保管する場合は光の当たらないところで保管して下さい。



↑ 色光の3原色



↑ 色料の3原色

弟子の独り言

はじめまして。今回よりこのコーナーを勤めさせていただきます島崎です。よろしくおねがいします。

光栄にも突然決まった新弟子とはほくのことです。(合掌)
何故突然決まったかというところ…少し僕のことを話そうと思いません。

約一年半前、いろんな事があって7年間勤めた自動車整備工場を退社しました。その理由の中に Airbrush がやりたいという事が大きくあったのです。

会社では機械修理がメインで Airbrush に触れることはほとんどありませんでした。雑誌を見たり、カスタム系のショップに行くと Airbrush に見とれる程度でした。

そんな中、僕の目を奪ったのはアメリカで行われていたバイクイベントの数枚の写真でした。単純な僕は「Airbrush の本場はアメリカ。どうせやるならアメリカでやるぞ〜」と思うようになったのです。

だけど、元々小心者な僕は「英語も出来ないし、アメリカは危ない。オーストラリアは治安が良いらしいし、アメリカと同じ西洋国家じゃん。Airbrush も盛んなはず etc…」等と自分に言い聞かせ、単身一年間のオーストラリア行きを突然決めたのです。

だけど、やっぱり現実は甘くないですね。ろくに下調べもせず簡単にいくわけも無い。探すところが悪かったのか、僕のついた町々では旧車やボロボロな車しか目に付かず、Airbrush を見ることも出来ませんでした。「ハンドピース片手に金髪娘と楽しく過ごす」という妄想も軽く吹き飛んだのです。

始めてもないのに「Airbrush 自体が自分に向いていないのでは？」等と落ち込んだこともありまして。お金も底をつき食べ物にも苦労しました。帰りのチケット代も現地で貯めたお金です。

そんな中でも一度だけバイクに描かれた Airbrush を見ることができました。美術館みたいなところで。そこには残念ながら僕の想像とは大分違う Airbrush が展示されていました。

おかげで、もし僕が上手になったら伝道師として旅をしたいという夢もできた位です(夢は大きくです)。

ありがとうオーストラリア。ありがとうトップレスのギャルたち…。

オーストラリアにいる間、Airbrush に全くと言っていいほど近づいていなかった為か帰国後は Airbrush に対する気持ちがより大きくなっている自分がいました。そして、以前は何度調べても見つからなかった Total-T のホームページにたどりついたのです。その絵と思えない絵に何度も唸っちゃいました。

単純に Airbrush に少しでも近づきたい気持ちが大きかった僕は、実家の東京からバイクにテントを縛って金沢までやってきたのです。金沢でバイトを探して教室代を稼ぐつもりでした。

絵が見たくなったらすぐにも見に行けるし、どんな人か見てみたいという気持ちも有りました。

だけど、やっぱり現実甘くないですね。

あても無く金沢に来たので、思うように仕事が見つからなく貯めるどころか減る一方の所持金に気落ちし、また



しても「Airbrush 自体が自分に向いていないのでは？」と思いました。

だけど、何もしていないのに諦めるのも僕はいやなので、とりあえず絵だけでも見ようとココにきました。

もちろんアポ無しです。絵を見たら、話だけでもと思い工場に足をふみいれました。

迷惑は承知で。本当にドキドキでした。

Total-T にしてみたら訳のわからない変なのが突然来たのです。普通だったら追い返すところですね。

僕自身、追い返されると思っていました。

だけど、Total-T は僕の話聞いてくれました。

ココに来るまで経緯や Airbrush に対する気持ち、将来の夢なんかを話しているうちに弟子になっても良いとの言葉を頂きました。(感謝)

こんなことがあって今、僕はパソコンに向かってこの本と一緒に作らせてもらっています。

もうすぐ弟子入りして3週間。ここでも現実には甘くなく Airbrush をやる時間も殆どありません。

Total-T は「弟子には教えん！ぬすむのだ〜！！」と、どこかの仙人のようなことを言います。

初めて描いた女性の絵は、北斗の拳の、ケンシロウのような顔になってしまいました。(南無)

今は、Total-T と生徒さんの会話に聞き耳を立て、基本をよく練習し、自分なりに研究しながら諦めずに頑張っています。

極端ですが、これは僕のやりかたです。

でも、Airbrush が好き、Airbrush って格好いいと思う気持ちは皆さんと同じだと思います。

僕が言いたいのは、夢を持ちながら諦めずに実行して行けば必ず形になって現れてくると思うのです。

まずは Airbrush を始めるという夢がかないました。

今は Airbrush が上手になりたいという夢に爆進中です。

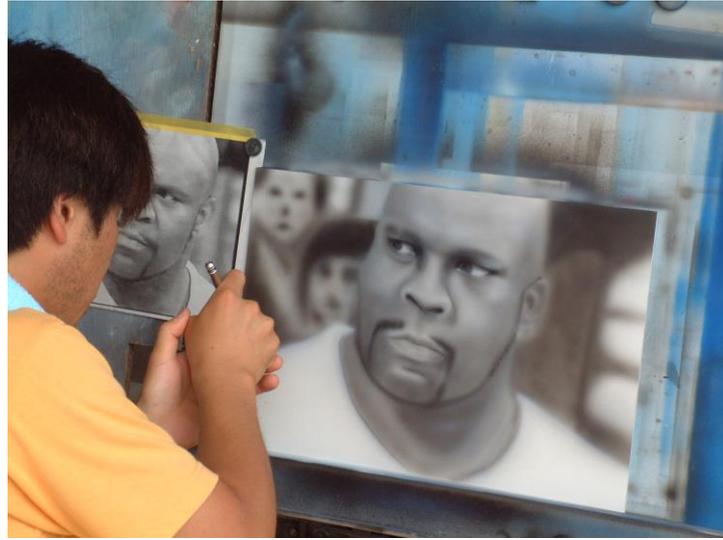
最後まで読んでくれてありがとうございます。(感謝)

島崎 卓也

感想文

先日、エアブラシ教室に来てくださった近藤さんに感想文をお願いしたところ、快く引き受けて下さいました。

この感想文が何か皆様のお役に立てばと思い、掲載させていただきました。



はじめまして、BOOK 購読者の近藤と申します。

先日、TOTAL-Tのエアブラシ教室を受講した時に今までの本の感想を聞かせてほしいとの要望があり、この度感想文を書かせていただくこととなりました。

早速、本題の感想を書かせていただきますが、この本は読めば読むほどに奥がある気がします。私の場合初心者なので、どうしても一度読んだだけでは覚えきれないことが多々あるのですが、何回か読み直しをしていると、分からなかったことだけでなく、何気に重要そうな文章や名言が見えてくることがあります。

今現在も感想文を書くために一号から一通り読んでいるのですが、その最中でもついつい読み入ってしまうようなページがたくさんありました。

もちろん私は初心者ですからどの号のどのページも大切なのですが、一番印象に残っているところは3号の一言のコーナーです。

「もっと努力しろっ！研究をしろっ！」ってところですね。

私の場合エアブラシの知識がないので色々質問したいことがあったのですが、このページを読んでから聞きたいことを自分の課題として、自分なりの研究や調査をして、自分なりの答えを探してみるのも楽しい事と思えるようになりました。

ちなみに私が唯一質問したことは・・・竹島さんの使っている塗料についてでした。

ビデオの中で「私にどの塗料を使っているか聞いたら負けと思ってください」という場面も覚えていたのですが、先日のエアブラシ教室で聞いちゃいました。その塗料はエアブラシ教室で

私も使わせてもらったのですが、さすが竹島さんの選んだ塗料！といった感じで、私が使っている塗料よりもはるかに使いやすいものでした。

でも、竹島さんがこの塗料にたどり着くまでには色々研究をいただろうし、もしかしたらもっと都合の良い塗料を探しているかもしれないので、私も当面自分なりの塗料で練習して行こうと思います。

ちょっと感想文から外れてしまいましたが、もう一つ印象に残っている場面があります。今は卒業してしまった海前さんの「弟子の独り言」です。

このコーナーはなかなか言葉で表現しづらいところですが、とても大切なことを書いてくれたと思います。と、言うかエアブラシに対する情熱の持ち方を教えてもらった気がします。また、本に付属しているビデオですが、これは非常に分かりやすくて効率の良い教え方だと思いました。

本だけでは伝わりにくい事でも、ビデオでなら無理なく説明できるので、初心者にはやさしいアイデアだと思いました。

私の感じた感想はここの辺でおしまいですが、最後にこの本のひとくくりまで後数回というのは、ちょっと寂しい気がしますので、時々臨時でこのような本を作ってもらいたいと強く希望しています。

また、この本の成果として TOTAL-T 版 MIST みたいなものをするのも良いのではないかな？と思っています。

おしまい。

近藤 功

第7章 知ってもソンしないコラム

※ ビデオ CD  “知ってもソンしないコラム” を参照下さい。

今回は自分がペイントした車がモーターショーに出展されるかもしれないという話です。

モーターショーといってもいろいろあると思いますが、どうも東京モーターショーのような雰囲気・・・。

車が仕上がって、実際にショーに出展されないことには自身を持って言えないことなのですが、つつい嬉しくなって思わずこのコーナーで話をしているしだいです。(ボツの話になったらゴメンナサイです。)

その私がペイントする車は、某オーディオメーカーがモーターショーに出展するための車。

東京モーターショーが終わった後、その車は海外に行くようです。

オーディオメーカーなのでオーディオ機器を売り込むための出展でしょうし、メーカーとしての今後に響く非常に重要な役割をもったショーカーであると思います。

オーディオを専門的にインストールする業者がオーディオをインストールし、その引き立てとして車のペイントにもこだわるといった具合だと思います。

そのショーカーのペイントを私が施すという話になったということは、即ちついに TOTAL-T も認められた？と思うと、嬉しくてしかたがありません。

私はこの嬉しさをこのショーカーへ思いっきりぶつけないとと思っております。

ぶつけるのはもちろん自分の技術！ メーカーやデザイナーのイメージを大切にしながら、存分に自分のペイント技術をその出展する車にぶつけないとと思っています。

結果がどうなるかは未知の世界ですが、今のところ9月の半ばから後半にかけての10日間くらいでペイント作業を終了し、あとはモーターショーに出展されるのを待つばかりという予定です。

出展されれば、是非実際のモーターショーを見に行きたいと思っています。

行った時は、ついでにきれいなコンパニオンの GAL 達と仲良くなれば・・・なんて思っていますが、それよりも車のペイントを完成させないと・・・って感じです。(笑)

近頃はやりがいのある仕事が次々と入ってくるようになり、その分プレッシャーも大きく自分に押し掛かってくるわけなのですが、AIRBRUSH を続けていて良かった～と感じているこの頃です。

根気強く夢を持ってやり続けていけば、いつかはよいことにぶつかるんだよ！ と皆さんに伝えたくて、今回はこんな“知ってもソンしないコラム”となりました。

TOTAL-T 竹島敏也

この本と共に勉強していきたい方のための道具選び

これから AIRBRUSH を始めようとする購読者のみなさんへ
私がお勧めする道具等を紹介していきます。
私が経験をもとに厳選したもので、
安心してご使用できることと思います。
ほしいものがあればご購入ください！
その道具を使いながら、私と一緒に勉強していきましょう！
購入しなくても、いっこうにかまいません。
参考にするだけでもいいと思います。
道具は財布と相談しながら、少しずつ揃えていけばいいと思います。
この本と共に勉強していくために、
必要なものを少しずつ紹介していきます。
よけいなものは紹介しませんので、ご安心ください。



TOOL の購入を希望される方は…

※付属のビデオ CD から購読者専用ページに入れるようになっています。

購読者専用ページ → TOOL コーナー よりお申し込み下さい。

道具に関してのご質問やご要望などありましたら、遠慮なくお申し付けください！

ビデオ CD とオマケについて…

ビデオ CD を見ていただきたい！

手作りでのビデオ CD も作っているために、画像が悪かったり、しゃべっている声が聞きづらかったりするかもしれませんが、
どうかお許し下さい。

しかし、内容は充実していると思います。
このビデオ CD を見なければ始まりませんよ！

オマケで遊んでいただきたい！

オマケとしてつけたものはほんの私からの気持ちです。
有効に使って頂ければありがたいです。



CD の見方は…

CD をパソコンに入れると、自動的にインターネットエクスプローラが立ち上がるはずですが。

あとはメニューの中身を見るだけです。

うまく見られない場合は CD の中身をエクスプローラ等で表示させ、一つ一つのデータをクリックしてみてください。

見られないといった連絡も現在数件ありましたが、CD が不良ではなく、ほとんどの場合がパソコンの不具合や CD プレーヤーの不具合、またはインターネットエクスプローラやメディアプレーヤーがインストールされていない場合です。

うまくいかない場合は、パソコンのことを知っている近くの方に相談してみてください。

万一、CD が不良の場合は CD を再度お送り致しますので、ご連絡下さい。

マッキントッシュのパソコンでは見られないかもしれませんがその点はご了承下さい。

編集後記

“TOTAL-Tが教える HOW TO AIRBRUSH VOL.09 “ いかがでしたか？

良かったですか？ 悪かったですか？

なかなかゆっくりと時間がとれずにこの本を作っている状態で、本が出来上がってからいつも少し心配になってしまうのですが、一生懸命に皆さんのことを思ってこの本を作っているの、それだけのご理解願います。

今回は Vol.10！ ひとくりまで残す所あと3回となりました。

これからも皆さんの声を反映しながらがんばっていこうと思っていますので、メールや掲示板等で皆さんの声をお聞かせ下さい。

私の独りよがりの本ではなく、皆さんと一緒に作っていく本、一緒に成長していく本です！

次回も、皆さんからの声を励みにしてがんばっていくつもりですので宜しくお願い致します。

本のご予約について・・・

[当ホームページ](#)→[BOOK](#)→[購読申込フォーム](#) よりご予約ください。

自分の予約状況を知りたい場合や予約を解除したい場合はメール等でお問い合わせください。

尚、携帯電話からでも当ホームページ <http://total-t.com>

にアクセスしていただければ購読予約ができるようになっていますのでご利用ください。

不具合等を発見されましたら遠慮なくお伝え下さい。

★AIRBRUSH PAINT & TOTAL-TECH★

TOTAL-T

〒920-2104 石川県石川郡鶴来町月橋町 416-1

TEL 0761-93-9002 FAX 0761-93-5551

URL <http://total-t.com> Mail toshi@total-t.com

最後まで読んでいただきありがとうございました。